

テント一週一文（す）—— 5.30 川内原発行政訴訟傍聴記

（承前）

テント前の会話 5：風船プロジェクト参加の思い出

テント内側に張ってある布製「テント6周年記念」横断幕は、穏やかな風にそよいでいますが、テント外側に張ってあるビニール製「テント7周年記念九電弾劾集会」横断幕は穏やかな風に対して自己主張をしているかのごとく、なかなか揺れてはくれません。

そのような風が吹き抜けているテント前では賛同者ノートに男性（以下 A さん）が記名をしています。テント内で資料を読んでいた女性 B さんが、急いで立ち上がりテント前に出てきます。

B：こんにちは。有り難うございます。

A：こんにちは。大変ですね。九電は玄海原発を再稼働するのですね。

B：本当に九電は我が物顔ですものね。お近くですか？

A：南区です。

B：南区でしたら、ここを通ることも多いでしょう。

A：多くはないですが、時々通りますよ。私は、ホラ、玄海原発の近くから風船を飛ばして、放射性物質がどの方向にどれくらいの距離まで届くのか調べたことがあったでしょう。あれに参加したことがありますよ。

B：あれは4年か5年前でしたかね。九州玄海1万人訴訟の「風船プロジェクト」の主催で、1年間に4回、春夏秋冬の季節ごとに行いました。

A：よう～い、ドン！で、参加者は持っていた紙風船を上を手放すんですよ。そうすると空一面が風船だらけになって、それが次第に小さくなって、一つ一つ真っ青な空に消えていきました。

B：エッ？あれは紙風船でした？

A：石油原料の合成樹脂の風船は地球環境に問題あり、というわけで特殊処理をした紙風船を使うことになったんですよ。でもこれは強度に問題があって、空気を充填するスタッフは苦勞したらしいですね。

それはいいんですけど、来ていた子供たちは青空に吸い込まれていく風船に大喜びですよ。最後の風船が見えなくなると、ため息をついていましたからね。それに釣られて、大人たちもいつまでも真っ青な空を見つめていましたね。

B：さよう～～なら、って感じですね。

A：「原発さん、さよう～～なら」ですね。私は、玄海原発で事故があったら、偏西風の影響で福岡県や山口県が放射能の影響を受ける、と思っていたんですよ。ただ、現実に風船が飛んだ結果を見ると、放射能の動きは、というか風の動きは、そんなに簡単なものじゃないんですね。

B：私もよくは覚えていませんが、風船は東は奈良県、南は熊本県まで飛んでいきましたよね。

A：しかも相当のスピードで風に運ばれるんですよ。風船でさえ時速40、50キロっていうこともあったんじゃないかな～。玄海原発で放射能が漏れたら、風向きによ

るけれども、ここも1時間後には放射能が降ってくるってこともあるわけですよ。私の住んでる南区も似たり寄ったりですけど。

B：玄海原発は7年半動かしていなかったのでしょうか。その間メンテナンスはしていたでしょうけど、思わぬ不具合はいろいろ生まれていると思うんですよ。配水管だって穴は開くし、原子炉だって亀裂は入っているかもしれない。亀裂は入ってなくても7年目の高熱で思わぬ影響が出るかも知れないし。

A：エンジニアの方は、電力会社の技術はしっかりしているから、素人が危惧することはエンジニアが先に手を打っている、とおっしゃっていますよね。

B：エンジニアの方はそうおっしゃいますが、普通の方はそうは思っていないのですよ。その理由の一つは、電力会社が市民に真摯な説明をしないからですよ。たとえ説明会をしても、自分たちの言うことを繰り返すだけですものね。一種の「知らしむべからず、依らしむべし」から抜け出していないのです。一貫して愚民政策を採用しているのです。

A：二つ目は何ですか。

B：技術を過信しているからです。

A：三つ目は何ですか。

B：自分たちの後ろには政府が付いているとふんぞり返っていて、国民を睥睨しているからです。

A：四つ目は何ですか。

B：それはね……、アラ、いつまで言わせるおつもり？

A：いえいえ。失礼いたしました。

B：どういたしまして。

A：長いこと話してしまいました。大変でしょうが、どうぞ頑張ってください。

B：有り難うございます。これ、テントの資料ですので、お持ちになってください。今度ここを通るときもテントにお寄りくださいね。

5月30日の川内原発行政訴訟

BさんがAさんとの話を終えてテントに入ると、背中とお腹に脱原発の大きなゼッケンを着けて自転車でテントに手伝いに来ている「自」さんが来ていました。

B：こんにちは。今日は遅かったですね。

自：先ほどまで傍聴記を書いていたので、遅くなってしまいました。

B：傍聴記？

自：ご存じなかった？ 5月30日に川内原発行政訴訟の裁判があったんですよ。

A：アッ、そうでした。忘れていた！ ずいぶん前に言われていたんだった。ホラ、あの方に……。名前を忘れてしまったわ。

自：誘った方の名前も誘った内容もお忘れになっていたんですね。ご立派！

B：ほんとに自分ながら、ご立派！ だわ。それで30日はどうだったのですか。

自：説明は長くなるのでいたしません、何か歴史の転回点を経験しましたね。

B：どういう意味で？

自：原子力規制委員会が3月7日に声明を出したでしょう。日本の原発では大きな火山活動や地震についての影響は「社会通念上」無視してもよい、っていう趣旨の。

B：エッ、そういう趣旨？

自：私の言葉は少し違うかもしれないけれど、ともかく規制庁は新しい安全神話構築に向けてとんでもない一歩を踏み出したんですよ。2011年3月から7年経った2018年3月に。

B：知らなかったわ。

自：行政は、と言いますか、権力は国民が知らないうちに多くのことを決めるんですよ。気が付いた時には既に決まっています、もうどう仕様もないんですよ。

B：多くの方が気が付いても、もうどう仕様もない、とはならないと思いますが、自さんは少し運命論者？

自：そういうところはありますね。もう年ですから。

B：私も年ですけど、気が付いたらその時点で「ダメ!」とか「NON!」とか言う様にしていますよ。

自：NON! て何語？

B：もうほとんど日本語ですよ。

自：失礼いたしました。それですね。

B：ハイハイ。

自：さっきまでまとめていた傍聴記と、ホラ、先回西山さんのハガキを掲載していただいたでしょう、その西山さんからまたシニカルなハガキをいただいたので、見ていただきたいのですよ。

B：どんなハガキ、見せてもらえる？ アラ、これどういう意味？

自：やはりそうおっしゃるんですね。少しゆっくり考えて納得してくださいね。

B：皆さんに見ていただきましょう。

自：そうしていただけますと助かります！

とテント内では会話が続けていきました。

終わりに

この「テント一週一文」は2017年5月22日に「い」を掲載しまして、中断がありましたので1年と少しかかりましたが、色は匂えどの「す」までできました。残るは最後の「ん」のみです。これはテントが閉鎖されるためのために残しておくことにいたします。

テントが閉鎖されるのは、九電が再稼働を目論みながら原発での発電と送電を中断する事故時ではなく、廃炉へのスケジュールの第一歩として原発での発電を止めた時、すなわち原発からの撤退を決めた時でしょう。その時には多くの方がそれぞれの想いと体験を「テント一文」へつづられると思います。その時に「テント一週一文（ん）」を投稿させてもらおうと思っています。

「テント一週一文」への資料の掲載（転載）を許可していただきました個人や団体の方々、この戯文・駄文を時々クリックしていただきました皆さん、当方の杜撰な原稿を見られる形に整形していただきました「原発なくす蔵」編集部の方へお礼を申し上げます。

有り難うございました。

(文責 栗山次郎)
2018年6月4日公開

参照：川内原発行政訴訟 5月30日裁判傍聴記 + 西山進さんからのハガキ

http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/180604sendai_bouchou.pdf

http://npg.boo.jp/kieyuku/week_repo/180604nisiyama.pdf